

SPD物品・薬品管理支援システム 仕様書

長岡赤十字病院

<< SPD物品・薬品管理支援システム 業務仕様書 >>

項番	業務仕様内容
1	物流管理システム
1-1	システム管理対象全般
1-1-1	診療材料、医薬品、日用消耗品、検査試薬、フィルム類、印刷物の物流管理が可能であること。
1-1-2	定数管理品、非定数管理品(直納品)、購入品、預託品、持ち込み品、トレース管理品の管理形態に対応できること。
1-1-3	特定保険請求材料、非特定保険請求材料(実費請求材料)の物流管理が可能であること。
1-1-4	薬価対象薬品、非薬価対象薬品の物流管理が可能であること。
1-1-5	倉庫、手術室、病棟、外来、管理部門等マスタに登録した全ての部署の在庫情報(物品名、在庫数量、定数、発注点、未納数、保管場所情報等)が把握出来ること。
1-1-6	発注管理業務(各部署もしくは管理部門から納入業者への発注情報)
1-1-7	納品管理業務(納入業者から各部署もしくは管理部門への納品情報)
1-1-8	請求管理業務(各部署から管理部門へ供給して欲しいという情報(臨時請求を含む))
1-1-9	請求承認管理業務(各部署からの請求について院内規定に基づいた上長承認を行う機能)
1-1-10	消費管理管理(各部署にて消費したという情報で消費≠払出)
1-1-11	在庫管理業務(各部署における管理対象物品の全ての数量、管理状態等の情報)
1-1-12	払出管理業務(倉庫部門から各部署への払出情報(複数倉庫対応可))
1-1-13	セット品管理業務(手術など術式別に物品をセットして供給する機能)
1-1-14	棚卸管理業務(棚卸数量情報)
1-1-15	マスタ管理業務(登録されている各種マスタの情報)
1-1-16	入札管理業務(単価契約情報)
1-1-17	遡及値引業務
1-1-18	各種帳票作成管理
1-1-19	管理方式として定数補充方式、定量補充方式、残数確認補充方式いずれにも対応出来ること。
1-1-20	システム全体として各種バーコード(JANコード、GTINコード、GS1-128バーコード、2次元バーコード)に対応しており、バーコードスキャナやハンディターミナルを用いて運用省力化を図れること。
1-1-21	ラベル管理やカード管理も可能であること。またこれらを用いない運用とも混在して物流管理が可能であること。
1-1-22	オーダ連携方式、部門システム連携方式で管理出来ること。
1-1-23	システムが稼働可能なオペレーティングシステムは、サーバーOSはWindows Server 2016 相当以上、クライアントOSはWindows10 相当以上であること。
1-1-24	クライアントサーバー方式により複数端末からの同時アクセスでもレスポンス低下を防ぐこと。また各部署に配置するWeb機能端末はライセンスフリーで提供すること、
1-1-25	ログイン時はセキュリティ確保のため、ユーザーIDおよびパスワードが設定出来ること。
1-1-26	パスワードはユーザーにて任意に変更できるとともに暗号化して格納されること。一定期間、パスワードを変更していないユーザーには注意喚起を行うことができること。
1-1-27	各業務にて操作ログが記録されること。
1-1-28	ユーザーIDごとに使用できる業務機能を管理者が自由に設定可能であり、病院職員をはじめ物流業務受託業者でも最適な機能アクセスを提供することができること。
1-1-29	掲示板機能を有し、ログイン画面にて参照ができること。
1-1-30	メインメニュー画面に自部署状況(本日の消費数、請求数、未納数、未払出)が表示され、作業状況の俯瞰把握ができること。
1-1-31	メインメニュー画面にて機能検索を行うことにより、目的の業務画面にダイレクトジャンプできること。
1-1-32	各画面でのヘルプ機能を実装していること。またヘルプ画面の印刷が可能であること。
1-1-33	各画面ではコード入力、条件検索など複数の入力選択手段を実装し、GUIに考慮した操作性を確保していること。
1-1-34	各入力画面にて入力中のデータ出力が可能であること。
1-1-35	入力系業務画面のグリッドについて、列幅を任意に変更し、また列項目の並び順も任意に変更できること。
1-1-36	入力系業務画面のグリッドの表示設定は各端末毎に記憶され、前回使用時の状態を保持できること。
1-1-37	全てのカード、ラベルには1次元バーコード、2次元バーコードの両方を表記出来ること。
1-1-38	ラベルには保険請求可否情報等(任意の記号)が記載されいえること。
1-1-39	保険請求可能なラベルには保険請求名、医事コード、償還価格(薬価)が表記出来ること。
1-1-40	管理ラベルは、消費管理用と医事請求用が一体化された状態で印刷され、各診療現場においてミシン目から両者を切り離して使用することができること。
1-1-41	システムには複数のラベルプリンタを接続することが可能で、マスタ設定により物品単位で印字するラベルプリンタを自動選択することが出来ること。
1-1-42	管理ラベルには、倉庫管払出品か自部署管理品(非倉庫品)か誰でも判明できるように表記が為されていること。
1-1-43	管理ラベルは1枚ずつユニークなシーケンス番号が自動的に採番され、同一物品であってもシステム上で個別認識されること。
1-1-44	物品の保管場所が管理ラベルに印刷されていること。
1-1-45	現行システムの単品単位・在庫金額を引き継げること。
1-1-46	既存分も含め単品単位での消費税率を管理できること。
1-1-47	データ処理締切後は遡って修正ができないこと。
1-1-48	システム上の全マスタおよびトランザクションをバックアップファイルとして安全に待避できること。障害発生時には直近のバックアップファイルからデータの復元が可能であること。
1-1-49	当院と同規模の複数施設にて安定稼働しているシステムであること。
1-1-50	電子カルテシステム、オーダーリングシステム、財務会計システム、管理会計システム、経営分析システムなど病院総合情報システムに含まれる複数のシステムとデータ連携実績を有するシステムであること。

1-2	将来的な病院情報システムとの連携
1-2-1	富士通製の電子カルテシステム及び医事会計システムと連携可能であること。
1-2-2	物流管理システムとの連携に伴い、電子カルテシステム側の運用を変更しないこと。
1-2-3	電子カルテシステムから、各オーダの依頼・実施情報をI/F経由で受信可能であること。
1-2-4	医事会計システムから出力する点数マスタ及び稼動額ファイルのCSVファイル等を取り込み可能であること。
1-2-5	医事会計システムから受信した実施情報と医事会計システムから取り込んだ稼動ファイルを患者ごと、部署ごとに比較して収支の実績を可視化可能であること。
1-2-6	連携システム構築を円滑に行うため、既設電子カルテシステムの連携に関するマスタ設定について、説明対応が可能であること。
1-3	発注管理業務
1-3-1	消費情報・倉庫払出情報に基づいて、発注書が自動作成・出力出来ること。また、臨時請求データに関しても同様に処理出来ること。
1-3-2	発注書に納入業者独自の業者物品コードを出力することが出来ること。
1-3-3	発注書に納入部署の保管場所情報が出力することが出来ること。
1-3-4	発注データの確認、修正が出来ること。
1-3-5	請求者毎に発注データの作成が出来ること。
1-3-6	期間を指定して、部署別、業者別に発注一覧表が作成出来ること。
1-3-7	発注書記載内容に基づいて納入業者別の納品確認書が作成印刷出来ること。
1-3-8	発注書に入荷情報登録用のバーコードが印字されていること。
1-3-9	トレーサビリティ対象物品については、通常発注書とは異なる発注書を作成出来ること。
1-3-10	発注書印刷時に、必要枚数分のラベルが発行出来ること。また、発注書控えも同時に作成出来ること。
1-3-11	電話回線を利用したFAX発注が出来ること。
1-3-12	FAXは未送信、送信済の送信履歴を指定し、送信出来ること。
1-3-13	VAN発注の対応として、MEDICODE-Web/SRIに対応した発注用CSVファイルの出力が可能であること。
1-3-14	FAX発注やVAN発注等の発注方法については物品毎に指定出来ること。
1-3-15	請求承認機能にて購入の伺いを行うことができること。
1-3-16	請求データが重複した際、これらを集計して発注データを作成することが出来ること。
1-3-17	随意契約品については、発注時に個別金額設定が出来ること。
1-3-18	定量発注が出来ること。また休日前定数を採用した発注が出来ること。
1-4	納品管理業務
1-4-1	納品日を遡っての入力が出来ること。
1-4-2	1枚の発注書に関する納品登録処理が、発注書バーコードのスキニングのみで完結出来ること。
1-4-3	納品処理で使用するバーコードは重複入力が出来ないようにされていること。
1-4-4	納品入力の際は、画面上に未納品データと呼び出して納品登録が可能であること。未納品データは業者、発注日、発注番号、発注部署で絞り込み抽出が出来ること。
1-4-5	ハンディターミナルを使用して納品登録が可能であること。
1-4-6	発注書のバーコードをスキニングして納品登録を行うことが出来ること。
1-4-7	GS1-14、GS1-13、合成シンボルなどのマーキングを利用して納品処理が出来ること。
1-4-8	納品処理後の個別修正が出来ること。
1-4-9	分割納品に対応出来ること。
1-4-10	期間を指定して、部署別、業者別に入荷一覧表が作成出来ること。
1-4-11	期間を指定して、部署別、業者別に未納品一覧表が作成出来ること。
1-4-12	期間を指定して、業者別納品一覧表が作成出来ること。
1-4-13	期間を指定して、業者別納品内訳表が作成出来ること。
1-4-14	トレーサビリティ対象物品については、物品記載のGS1-128、RSS合成シンボルのスキニングにて個別情報が入力出来ること。
1-4-15	当該物品にGS1-128コード、RSS合成シンボルが無い場合やシリアル管理品については手入力で登録が出来ること。
1-4-16	トレーサビリティ対象物品はシステムから出力された発注書を使つての納品登録時に、マスタに登録されたJANコードと異なるとき、アナウンスが出て新しいJANの時はそのままマスタに登録反映されること。
1-4-17	納品処理後、必要枚数分のラベルが自動印刷出来ること。
1-4-18	業者への返品処理が可能であること。院内返品元部署、返品先業者、返品日を指定して登録が可能であること。
1-4-19	返品登録の際は、契約マスタと異なる業者への返品も可能であること。また契約マスタと異なる単価を指定して返品登録も可能であること。
1-4-20	事後発注入力機能を有し、発注情報が無くても入荷情報の登録が可能であること。その際、契約マスタと異なる業者・単価へ変更して登録することも可能であること。また納品登録時に発注書およびラベルの発行が可能であること。
1-4-21	事後納品登録機能で納品登録を行う際、該当物品について消費済み(納品＝消費)情報として登録することも可能であること。
1-4-22	事後発注入力機能にて入荷情報を登録後、部署への払出処理を行うこともできること。
1-4-23	メディコードからのテキスト納品情報(LOT、有効期限など含む)を取り込む事が出来ること。

1-5	請求管理業務
1-5-1	使用部署の消費情報に基づき、必要分の請求データが自動的に作成出来ること。また同じ画面上で臨時分の請求データを追加作成することが出来ること。1日の請求回数に制限が無いこと。
1-5-2	消費により自動的に抽出された請求データについても修正が出来ること。
1-5-3	臨時請求により払出された物品も、払出先の部署在庫として数量を管理出来ること。
1-5-4	各部署のクライアント機能にて、定数品、非定数品を意識することなく請求が出来ること。
1-5-5	スキャナで各部署毎の請求用バーコードブックをスキャンして請求品の選択が出来ること。
1-5-6	Web請求機能は院内いずれの病院情報システム端末上からでも請求入力ができること。
1-5-7	部署ごとにあらかじめセットされた請求リスト(グループマスタ)を表示させ、請求入力ができること。
1-5-8	グループマスタは各部署に配置された物流端末にてメンテナンスが出来ること。
1-5-9	各部署にクライアント機能を展開した時は、その部署の在庫マスタのみ臨時請求できる制限機能を有していること。
1-5-10	各部署からの請求データを一括受付出来ること。
1-5-11	各部署からの請求データを部署毎に受付出来ること。
1-5-12	各部署からの請求データにもとづき、院内倉庫在庫品の部署別払出データが作成出来ること。
1-5-13	各部署からの請求データにもとづき、部署独自品の発注データが作成出来ること。
1-5-14	各部署からの請求受付終了時間の設定が出来ること。
1-5-15	業者請求の際は納品希望日、倉庫請求の際は払出希望日をそれぞれ設定出来ること。
1-5-16	入力時には現在の在庫情報(定数、発注点、未納数等)を確認しながら入力することが出来ること。
1-5-17	入力時に請求理由等のコメント入力機能を有していること。
1-5-18	入力時に納品指定日を設定出来ること。
1-5-19	過去の請求履歴を呼び出し選択して請求の登録が出来ること。
1-5-20	入力中の請求情報は臨時、緊急など、その請求理由を選択出来ること。
1-5-21	ハンディターミナルを使用して請求情報が作成登録出来ること。
1-5-22	外来・病棟以外の部門(事務部門 他)の定期請求(雑品ファイル請求)処理ができること。 対象部門の必要とする物品を請求一覧をもとに部門が請求し、それをもとに発注・払出が一括で処理できること。
1-6	請求承認管理業務
1-6-1	物品個別にて承認品か否かの設定が出来ること。
1-6-2	承認条件がマスタ上にて勘定科目、金額、部署毎の設定が出来ること。
1-6-3	マスタにて自動承認設定ができ、請求に対して承認データが作成されること。
1-6-4	複数人が各請求に対して承認が出来ること。また、承認者をマスタ上にて設定が出来ること。
1-6-5	請求情報に対して承認者が承認、否認等の登録が出来ること。また、代理承認も可能なこと。
1-6-6	最終承認者が承認しないと購入、払出が出来ない機能であること。
1-6-7	承認対象の請求物品に対して過去の請求実績が確認出来ること。
1-6-8	請求した現時点での承認状況が画面上にて確認出来ること。
1-6-9	承認登録する上で承認者のコメントが入力出来ること。また、請求者のコメントを含めて画面上でコメントの有無を確認出来ること。
1-6-10	承認登録する際に請求品に対する詳細情報(物品、契約、定数等)の確認が出来ること。
1-6-11	請求毎に請求情報および承認結果がシステム帳票で印刷出来ること。
1-6-12	システム画面上にて最新の請求件数と承認待ち件数情報が確認でき、ボタン操作にて最新情報が表示出来ること。
1-7	消費管理業務
1-7-1	ラベル運用の場合、定数管理品、臨時請求品、倉庫払出品、自部署管理品など在庫管理区分が異なっても、同一画面上で混在して消費入力ができること。
1-7-2	ラベル台紙には部署切替バーコードと更新用バーコードが印字され、消費入力がスキャンニング操作のみで完結できること。
1-7-3	消費情報は、部署別、診療科別、患者別に入力出来ること。1日に消費入力できる回数に制限が無いこと。
1-7-4	指定期間内に消費実績が無い物品について、部署別など条件を指定して一覧表が出力出来ること。
1-7-5	破棄・破損分については「破損」「紛失」「開封汚染」など理由別に入力・実績管理が出来ること。
1-7-6	破棄や破損の理由区分については環境に合わせ任意に変更出来ること。
1-7-7	各部署にクライアント機能を展開した時は、その部署にて消費入力出来ること。
1-7-8	各部署にクライアント機能を展開した時は、部署別物品別日別の消費情報一覧が出力(紙、エクセル)出来ること。
1-7-9	納品単位とは別に消費単位が柔軟に設定出来ること。消費単位は各部署ごとに異なった単位が設定出来ること。
1-7-10	トレーサビリティ管理対象品については、管理ラベルに紐付けられているロット・シリアル番号および有効期限情報を自動的に取得し、個人別消費情報に紐付けて登録できること。
1-7-11	ロットNo.、有効期限は直接入力出来ること。
1-7-12	管理ラベルには電子カルテシステムにて実施入力を行う際に用いるバーコードを印字することが可能であること。
1-7-13	消費入力は、管理ラベルのバーコードのスキャンニングの他、ラベルシーケンス番号の手入力でもできること。
1-7-14	他部署の管理ラベルを異なる部署で消費入力した際、物品の貸し借りが行われたものとシステム側で判断し、部署間の在庫移管を自動的に行うこと。
1-7-15	期末棚卸の在庫品について、その後の薬価改定により薬価差損が出たものの一覧表を出力可能なこと。薬価差損額を資産から差し引けること(たな卸し評価損)。その後の出庫価格・棚卸価格は改定後価格を適応すること。
1-7-16	預託品については、消費入力した時点で請求情報・発注情報・入荷情報を自動的に生成すること。また、通常の発注書とは別に預託品補充依頼用の発注書が出力できること。
1-7-17	管理ラベルは1枚ずつ記録されたユニークなシーケンス番号により、バーコードをスキャンした際に重複入力チェックが自動的に実行されること。
1-7-18	消費入力について日付を遡って処理ができること。
1-7-19	ハンディターミナルを使用して消費情報が作成登録出来ること。
1-7-20	先入先出方式による消費処理ができること。

1-8	在庫管理業務
1-8-1	管理対象物品全ての在庫情報が登録されており、システム上にて随時確認出来ること。定数管理品、非定数管理品、臨時請求品が各部署の在庫情報として確認し管理が出来ること。
1-8-2	各部署及び倉庫の在庫数を物品別、部署別に把握・検索することが出来ること。
1-8-3	定数管理品、非定数管理品、臨時請求品が各部署の在庫情報として確認し管理が出来ること。
1-8-4	在庫(消費)単位が部署毎で箱、束、本など異なっても1マスタで登録管理出来ること。
1-8-5	過去の消費情報に基づいてシステムにて各部署の物品毎の回転率を自動計算出来ること。
1-8-6	過去の消費情報に基づいてシステムにて各部署の適正な定数(参考定数)を自動計算出来ること。
1-8-7	各部署にクライアント機能を展開した時は、他部署倉庫部門の在庫情報が随時検索・参照出来ること。
1-8-8	一品ずつロット、有効期限の管理が出来ること。
1-8-9	発行したラベルは追跡(トレース管理)することが出来ること。
1-8-10	部署内に複数の保管場所を設け、同一物品を部署内の複数箇所在庫管理できること。それぞれの保管場所で別々の管理単位(入数・単位)を設定して管理ができること。
1-8-11	通常定数以外に休日前の定数を別で設定することが出来ること。
1-8-12	物品毎、部署毎(払出先部署)に払出元を選択出来ること。
1-8-13	物品毎、部署毎に払出品、直納品の区別が出来ること。
1-8-14	保管場所については、3段階(棚・ドロー・引出し)まで階層化して管理ができること。
1-8-15	部署間で在庫移管処理ができること。複数の倉庫部門を設定した場合は、倉庫間での在庫移管処理もできること。
1-8-16	在庫情報としてはリアルシステム在庫、棚卸結果在庫を保有していること。
1-8-17	1次倉庫、2次倉庫の管理が出来ること。
1-8-18	システムの構造としてマイナスでの運用が出来ること。
1-8-19	在庫管理の開始日を任意で設定出来ること。
1-8-20	在庫数の他に未納数も確認出来ること。また未納数は、定時未納数と臨時未納数に区別出来ること。
1-9	払出管理業務
1-9-1	使用部署の消費情報に基づき、倉庫払出物品のピッキングリストが自動で作成・出力出来ること。また、臨時請求データに関しても同様に処理出来ること。
1-9-2	請求情報の収集期限(日時)を設定出来ること。
1-9-3	倉庫払出物品の倉庫在庫自動引落しが出来ること。合わせて払出しデータが作成されること。
1-9-4	ピッキングリストの出力順は保管場所情報順に出力が可能であり、倉庫作業効率の向上に配慮したものであること。また、ピッキングリストと同時に管理ラベルを自動的に印刷することが出来ること。
1-9-5	ピッキングリストに基づいて払出数を入力出来ること。
1-9-6	部署から倉庫への返却入力が可能であること。院内返却元部署、返却先倉庫、返却日を指定して登録が可能であること。
1-9-7	期間を指定して部署別払出一覧表が出力出来ること。
1-9-8	期間を指定して物品別払出一覧表が出力出来ること。
1-9-9	納品単位とは別に払出単位が柔軟に設定出来ること。また、払出単位は部署ごとに個別設定出来ること。
1-9-10	払出単位について月中の変更が可能なこと。
1-9-11	複数の払出倉庫部門の設定が出来ること。また、物品ごとに払出先倉庫部門の設定が出来ること。
1-9-12	払出対象にトレース管理品が含まれている場合は通常品との区別がつくような表記があること。
1-9-13	倉庫の在庫が不足していた場合は、払出数を修正することが出来ること。また未払出分については次回のピッキング時または払出時に抽出対象となること。
1-9-14	払出後には、払出リストと未払出リストが出力出来ること。
1-9-15	休日前定数を使用して、ピッキングリストの作成が出来ること。
1-9-16	ハンディターミナルを使用し、無線LAN環境下にて部署から倉庫への返却入力も可能であること。
1-9-17	ハンディターミナルを利用して医薬品はRSS合成シンボルをスキャンしてLOT情報を付与した払出登録が出来ること。
1-9-18	ピッキングリストを経由せず、個別の払出入力、ラベル発行が出来ること。
1-9-19	トレーサビリティ対象物品については、物品記載のGS1-128、RSS合成シンボルのスキャンにて個別情報が入力出来ること。また入力されたロットNo.、有効期限についてはラベルに表示出来ること。
1-9-20	先入先出方式による払出処理ができること。
1-9-21	定数配置された物品は、倉庫在庫と交換した際に定数在庫金額にも反映させること。
1-10	セット品管理業務
1-10-1	術式別などのセット品としてマスタの登録が出来ること。
1-10-2	セット品の構成物は任意に追加変更出来ること。
1-10-3	請求入力時、通常の物品と同様の操作でセット品の請求が出来ること。
1-10-4	セット品の請求時、手術予定などにより内容を追加変更出来ること。
1-10-5	請求されたセット品データを収集し、ピッキングリストの印刷が出来ること。
1-10-6	セット品が返却された場合は、残数入力の形でその返却数を入力出来ること。
1-10-7	セット品の構成物品の消費状況について、評価分析することが出来ること。
1-11	棚卸管理業務
1-11-1	棚卸表が作成出来ること。棚卸表には、部署別、保管場所別、メーカー別、医薬品別等、棚卸作業の効率化に有効な情報が反映されていること。
1-11-2	棚卸に用いることができる定数在庫一覧表には定数、発注点、現在庫数、現未納数、払出管理単位、入数が表示されていること。
1-11-3	システム在庫と実在庫の誤差を入力しシステム在庫を訂正することが出来ること。
1-11-4	棚卸入力の結果、在庫補正として任意で追加ラベルの発行ができること。
1-11-5	定数管理品、非定数管理品ともに棚卸表に表示出来ること。
1-11-6	ハンディターミナルを使用した棚卸が出来ること。
1-11-7	棚卸結果をもって、棚卸調整が発生した一覧表を作成することが出来ること。
1-11-8	棚卸結果を在庫情報に更新出来ること。また更新しない事も出来ること。
1-11-9	日々の在庫情報とは別に棚卸結果を反映させた情報を保有することが出来ること。

1-12	マスタ管理業務
1-12-1	物品の登録は、100,000件以上出来ること。
1-12-2	各種マスタについては、必要な件数が登録出来ること。
1-12-3	マスターは当院の独自物品コード・JANコード・メディエコード・医事コード・業者物品コードなど、業務遂行に必要な補助コードを登録出来ること。
1-12-4	システム連携に必要な換算情報を含むコード設定が出来ること。
1-12-5	厚生労働省から全国統一コードが提示された場合など、任意で利用できる項目を保有すること。
1-12-6	ラベルの発行単位を任意に設定出来ること。
1-12-7	定数情報は部署毎でコピーが出来ること。
1-12-8	物品の検索については名称、規格、品番について中間検索の機能を有していること。
1-12-9	物品の検索についてはひらがな・カタカナ、全角半角、大文字小文字の区別をつけず抽出出来ること。
1-12-10	契約マスタ(購入価格、購入業者)、定価、償還価格、薬価の履歴管理が出来ること。またそれぞれ未来日での事前マスタ登録が可能であること。
1-12-11	償還価格、薬価についてはそれぞれ基準乗数を有すること。
1-12-12	部署毎の管理単位(単位名、人数)については世代管理が出来ること。
1-12-13	物品単位で物品マスタ、契約マスタ、部署配置マスタを同一画面上で表示し、タブ切替にて参照・保守が可能であること。
1-12-14	新規でマスタを作成する場合は現行のマスタ情報を引用し、作成出来ること。
1-12-15	物品マスタについては既定のフォーマットから一括で新規取り込み、および更新ができる仕組みを有すること。
1-12-16	契約マスタについては既定のフォーマットから一括で新規取り込み、および更新ができる仕組みを有すること。
1-12-17	部署配置マスタについては既定のフォーマットから一括で新規取り込み、および更新ができる仕組みを有すること。
1-12-18	誤って登録したマスタなど実績データ(トランザクション)が紐付いていないマスタは、削除ができること。
1-12-19	最新JANコードと旧1世代JANコードを物品マスタに同時に保持できること。
1-12-20	トレーサビリティ管理品かどうかの区分を有していること。
1-12-21	製造中止フラグ、採用中止フラグ、契約終了フラグ、部署単位採用中止フラグをそれぞれ別々に設定することが可能で、柔軟なマスタ管理が可能であること。
1-12-22	物品コードを自動的に採番する機能を有すること。
1-12-23	物品コードの履歴管理機能を有すること。(商品切り替え時の対応)
1-12-24	メディコードと契約を行なった場合は、メディコードのマスタを取り込む事が出来ること。
1-12-25	メディコードのマスタ取り込みを行った後、JANコードの検索から新規登録ができること。
1-12-26	医薬品マスタには先発品・後発品の区分があること。
1-12-27	販売移管等のマスタの切替が必要な際は、旧から新へのマスタ情報の移行が出来ること。
1-12-28	パターンマスタ機能を有し、管理ラベルの印字設定や在庫管理条件など各種マスタ項目を物品単位で一括設定することができること。
1-13	入札管理業務
1-13-1	1品目に対して複数の業者から見積もりを取り、入札単価の最も安い業者へ落札する機能を有すること。またその際に最安業者と比較単価の判定も行うこと。
1-13-2	入札対象品目を任意に抽出が出来ること。契約種別(単契・随契・共同購入)、物品種別、薬種、勘定科目、納入業者で絞り込み抽出が可能であること。
1-13-3	過去の購入実績あるいは発注実績を元に、予定数量を自動算出することが出来ること。
1-13-4	入札対象物品については、比較単価、購入予定数量を任意に変更することが出来ること。
1-13-5	各業者へ配布する入札ファイルについては、業者別にエクセルファイルにて出力出来ること。
1-13-6	各業者からの入札ファイルを取込み、落札処理が出来ること。
1-13-7	複数業者が同一価格だった場合は抽選となり、画面上で決定することが出来ること。
1-13-8	入札結果については入札結果一覧表として印刷することができ、また落札データファイル出力することが出来ること。
1-13-9	不調、不落分については再入札ファイルを作成(印刷)することが出来ること。
1-13-10	落札データファイルを指定し、契約開始日を設定した後、契約履歴データとして自動的に登録することが出来ること。
1-13-11	落札結果を契約決議書として印刷することが出来ること。
1-14	入札管理業務
1-14-1	現業者の見積り金額をもとに任意の期間に遡及して値引金額を算出できること。
1-14-2	任意の期間の合計値引金額を任意の日に一括で値引処理できること。
1-15	各種帳票(業務の軽減、および継続したシステム活用効果を得るために、下記帳票もしくは運用上同等の帳票が出力(印刷出力、Excel形式書出)出来ること)
1-15-1	消費一覧表
1-15-2	破棄・破損一覧表
1-15-3	購入請求一覧表
1-15-4	払出請求一覧表
1-15-5	ピッキングリスト
1-15-6	払出リスト
1-15-7	倉庫欠品リスト
1-15-8	未払出確認リスト
1-15-9	物品別払出一覧表
1-15-10	発注書
1-15-11	発注一覧表
1-15-12	未納品一覧表
1-15-13	入荷一覧表
1-15-14	入出庫問合せ
1-15-15	物品別入出庫問合せ
1-15-16	業者別年月別購入集計表
1-15-17	業者別納品内訳表
1-15-18	検品検収確認書

1-15-19	物品別発注状況リスト
1-15-20	物品取扱い部署一覧表
1-15-21	物品別定数配置一覧表
1-15-22	定数表
1-15-23	定数在庫一覧表
1-15-24	定数見直表
1-15-25	個人別・診療科別消費実績表
1-15-26	日別消費実績一覧表
1-15-27	月別消費実績一覧表
1-15-28	日別払出実績一覧表
1-15-29	月別払出実績一覧表
1-15-30	部署別払出月計表
1-15-31	部署別払出年計表
1-15-32	物品別払出一覧表
1-15-33	品目別部署別払出統計
1-15-34	払出実績集計一覧表
1-15-35	棚卸表
1-15-36	在庫調整表
1-15-37	在庫調整一覧表
1-15-38	長期発注無し一覧
1-15-39	長期消費無し一覧表
1-15-40	ラベル別不動在庫一覧表
1-15-41	物品別不動在庫一覧
1-15-42	期限切れチェックリスト
1-15-43	在庫表
1-15-44	購入状況表
1-15-45	払出一覧表
1-15-46	受払照会
1-15-47	受払合計表
1-15-48	月別受払集計表
1-15-49	業者別購入実績一覧表
1-15-50	販売元別購入実績一覧表
1-15-51	購入実績集計一覧表
1-15-52	部署別購入実績一覧
1-15-53	購入金額ABC分析表
1-15-54	医療材料別購入額順位表
1-15-55	勘定科目別購入実績一覧
1-15-56	物品別購入実績一覧表
1-15-57	マスタ情報一覧
1-15-58	各科在庫情報一覧
1-15-59	物品管理表
1-15-60	バーコードブック
1-15-61	使用済みラベル台紙

購入実績、払出実績および消費実績について、出力項目を任意指定してエクセル形式で実績データ抽出を行う機能を有すること。出力項目は、物品マスタ、契約マスタ、部署配置マスタの各項目を任意に指定できること。設定した抽出条件は保存することが可能であること。

《 SPD物品・薬品管理支援システム ハードウェア仕様書 》

項番	ハードウェア構成	
1	物流管理システム	
1-1	サーバ(富士通製)	
1-1-1	タワー型データベースサーバ ・OS:Windows Server 2016 Standard ・CPU: Intel Xeon Silver 4110 ・メモリ: 24GB ・ストレージ: 300GB (2.5型/SAS/10krpm) × 4 (RAID5) ・Ethernet: 1000BASE-T × 2ポート ・ハードウェア保守(5年間): 24時間/365日対応 ・クライアントアクセスライセンス	1台
1-1-2	サーバKVM機器 ・モニタ ・キーボード ・マウス ・PC切替機	1式
1-1-3	タワー型無停電電源装置(UPS) ※別途ソフトが必要な場合は、含めること	1台
1-1-4	当院地下1階のSPD物品・薬品管理室のLANケーブルを設置すること。 その際、工事施工業者は病院側が指定する業者とすること。	
1-2	クライアントPC(富士通製)	
1-2-1	デスクトップ型クライアントPC ・OS: Windows 10 以上 ・CPU: Intel Core i5 /デュアルコア以上 ・メモリ: 8GB 以上 ・ストレージ: 500GB 以上 ・日本語キーボード/光学マウス ・モニタ: 21.5型ワイドモニタ ・ハードウェア保守: 5年間	7台
1-2-2	・オフィスソフト: Microsoft Office Personal 2016	5式
1-3	付属機器	
1-3-1	レーザープリンタ ・A3/モノクロ/両面印刷	2台
1-3-2	レーザープリンタ ・A4/モノクロ/両面印刷	3台
1-3-3	バーコードスキャン(USB接続)	6台
1-3-4	ラベルプリンタ(パソコン発行型)	3台
1-3-5	ハンディーターミナル	7台
1-3-6	FAX発注用機器	1台
1-3-7	データバックアップ用機器	1台
1-3-8	その他本提案に必要な機器	
1-3-9	リモート保守環境に必要な接続機器	